

北陸大学 多様な人材の活用による研究体制の整備に関する計画

少子高齢化やグローバル化の進展など社会環境が急激に変化し、大学に対する社会からの期待が高まっている中、いかなる状況変化や新しい課題に直面しても、柔軟かつ的確に対応し組織を持続的に発展させていくためには、従来の慣習や常識にとらわれない、柔軟な思考と斬新な発想を持つ人材を育成・確保することが必要不可欠である。

北陸大学は、性差、年齢・国籍・職掌の違い、障がいの有無など、異なる属性や価値観、経験・背景を有する多様な人材に活躍の場を提供し、組織としての創造性・革新性・柔軟性を高める研究体制を整備することによって、本学の理念を実現していく。

【多様な人材活用の推進】

① 若手研究者(40歳以下)、女性研究者及び外国人研究者の雇用を推進する。

2025年(創立50周年)までに専任教員に占める各比率を増加させる。

- ・若手研究者 [現在 16.00%] → 目標 25% (30~60代の各世代の年齢構成を平準化する)
- ・女性研究者 [現在 24.40%] → 目標 35% (第2期中期計画による)

※総務省平成30年度科学技術研究調査結果 全国平均 16.2%

- ・外国人研究者 [現在 9.20%] → 目標 10%以上を維持 (第2期中期計画による)

② 各種委員会等に多様な人材をバランスよく配置する。

③ 多様な人材がそれぞれの能力を十分に発揮できるよう支援を推進する

【ライフイベント等により研究を中断した研究者への支援】

① 妊娠、出産、育児、介護等のライフイベント等により研究を中断した研究者の円滑な研究復帰及び教育・研究活動と家庭生活の両立を支援する。

(取組み)

- ・特別研究助成において、ライフイベント等により研究を中断した、又は研究開始時期がライフイベント等と重なった場合に、研究費の執行及び研究期間を保留し、復帰した後、研究を継続又は開始できることとする。
- ・研究活動助成費に、ライフイベント等により研究を中断した研究者1名につき10万円を上限として復帰支援研究費(申請制)を設ける。

【外国人研究者への支援】

- ① 教育・研究に関する言語的支援を充実させる。
- ② 施設・設備等の多言語表示を充実させる。
- ③ 外国人研究者と日本人研究者との文化交流の場を提供する。